



第94期中間報告書

2019年4月1日から2019年9月30日まで

アンリツ株式会社
www.anritsu.com/ir

94th
Interim Report





株主の皆様におかれましては、平素は格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

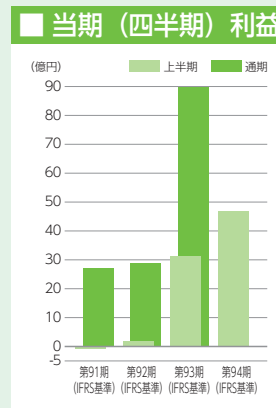
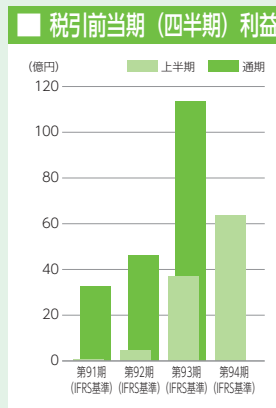
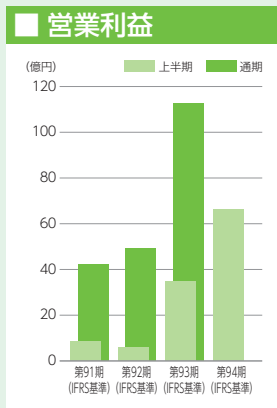
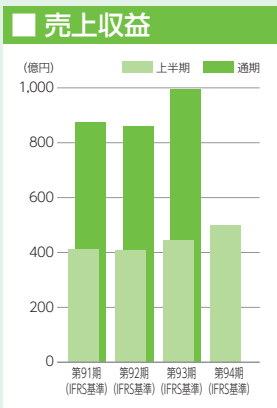
ここに第94期上半期（2019年4月1日から2019年9月30日まで）の事業の概況並びに決算の状況をご報告申し上げます。

今後ともなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2019年12月

社長・グループCEO

濱田 宏一



■ 当社グループを取り巻く事業環境 及び当上半期の主な取組み

情報通信分野においては、モバイル・ブロードバンド・サービスは質量ともに拡がりを見せ、データ通信量は急速に増加して、ネットワーク・インフラを逼迫させつつあります。それらの課題を解決するために、モバイル通信方式4Gは、LTE (Long Term Evolution) 及びLTE-Advanced、そしてLTE-Advanced Pro (Gigabit LTE) と進化しました。加えて、次世代の通信方式5Gの仕様策定が3GPPで進行しています。2017年12月に5G NSA-NR (Non-Standalone New Radio)、2018年6月に5G SA-NR (Standalone New Radio) の標準化が完了し、5Gの超高速通信に関する主要機能の全仕様が規定されました。3GPPでは引き続き、ユースケースの拡張が期待される超低遅延及び多数同時接続の仕様策定を検討しており、2020年に標準化完了が予定されています。その結果、米国、韓国に次いで、欧州でも5Gサービスが開始されるなど、各国オペレータの商用化スケジュールは順調に進展しています。日本においても各キャリアに5Gの周波数の割当が決まるなど、2020年の商用化に向けた準備が進みつつあります。

このような環境のもと、計測事業グループは、5Gの開

発投資需要を獲得するためのソリューションの開発と組織体制の整備に注力し、5Gチップセット及び端末の初期開発需要を獲得しました。

PQA事業の分野においては、加工食品生産ラインの自動化投資が進むとともに、X線を用いた異物検出並びに包装に関する品質保証などの需要が堅調に推移しています。

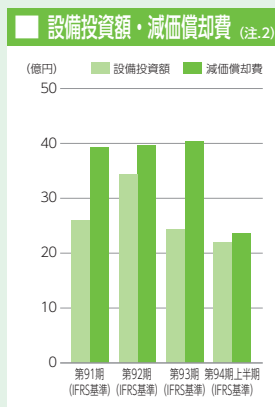
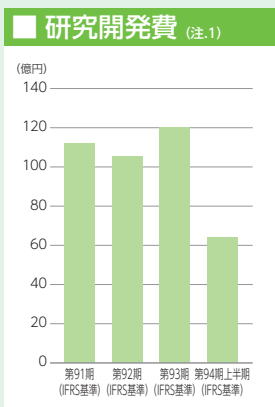
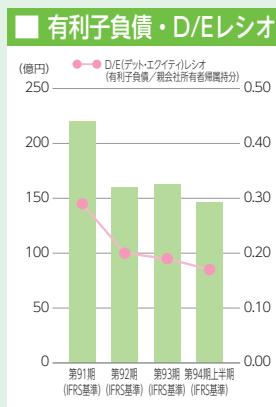
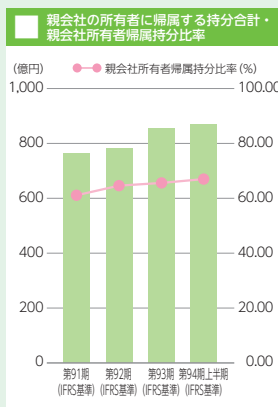
PQA事業グループは、このような状況下でX線を軸としたソリューションの競争力強化と海外の販売体制の整備拡充に取り組みました。

■ 当上半期の業績概要

この結果、受注高は536億32百万円（前年同期比11.9%増）、売上収益は498億8百万円（前年同期比12.3%増）、営業利益は66億32百万円（前年同期比90.5%増）、税引前四半期利益は63億71百万円（前年同期比73.2%増）、四半期利益は46億82百万円（前年同期比49.1%増）、親会社の所有者に帰属する四半期利益は46億56百万円（前年同期比49.0%増）となりました。

■ 株主の皆様への中間配当

以上の結果、株主の皆様への中間配当につきましては1株につき、11円とさせていただきます。



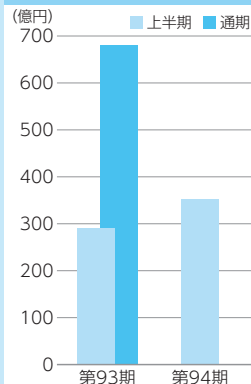
(注.1) 研究開発費は、一部資産化した開発費を含め研究開発費投資額を記載しております。

(注.2) 設備投資額は、期中に無形資産に計上した資産化開発費は含めておりません。減価償却費は、無形資産に計上している資産化開発費の償却額は含めておりません。

計測事業

- 売上収益 351億76百万円 (前年同期比 20.6%増)
- 営業利益 59億7百万円 (前年同期比 132.2%増)

●売上収益の推移



5G端末開発用測定器

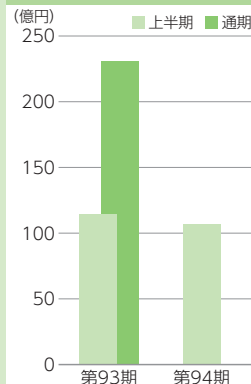


5G端末規格適合試験システム

PQA(プロダクツ・クオリティ・アシュアランス)事業

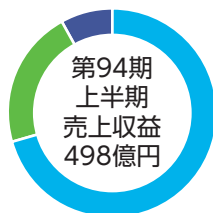
- 売上収益 106億98百万円 (前年同期比 6.5%減)
- 営業利益 4億60百万円 (前年同期比 46.0%減)

●売上収益の推移



X線異物検出機

■事業部門別売上収益 (連結)



- 計測 35,176百万円 (70.6%)
- PQA 10,698百万円 (21.5%)
- その他 3,932百万円 (7.9%)

■地域別売上収益 (連結)



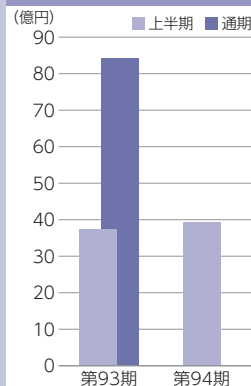
- 日本 16,031百万円 (32.2%)
- 米州 11,307百万円 (22.7%)
- EMEA 5,395百万円 (10.8%)
- アジア他 17,073百万円 (34.3%)

(EMEA：欧州・中近東・アフリカ)

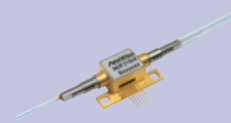
■その他の事業

- 売上収益 39億32百万円 (前年同期比 5.2%増)
- 営業利益 6億61百万円 (前年同期比 51.9%増)

●売上収益の推移



帯域制御装置



半導体光増幅器

要約連結財政状態計算書

(第93期 2019年3月31日現在)
(第94期上半期 2019年9月30日現在)

(単位：百万円)

科目	第93期	第94期 上半期
資産		
流動資産	92,994	91,394
現金及び現金同等物	45,097	46,145
営業債権及びその他の債権	25,055	21,353
その他の金融資産	537	16
棚卸資産	18,585	20,941
未収法人所得税	343	400
その他の流動資産	3,375	2,537
非流動資産	37,473	38,531
有形固定資産	24,221	25,389
のれん及び無形資産	3,586	3,519
投資不動産	830	746
営業債権及びその他の債権	305	283
その他の金融資産	1,670	1,719
繰延税金資産	6,814	6,833
その他の非流動資産	45	38
資産合計	130,467	129,926
負債		
流動負債	30,251	35,024
営業債務及びその他の債務	7,599	7,278
社債及び借入金	5,270	9,876
その他の金融負債	70	682
未払法人所得税	3,053	2,831
従業員給付	6,829	6,261
引当金	424	465
その他の流動負債	7,003	7,628
非流動負債	14,538	7,697
営業債務及びその他の債務	435	352
社債及び借入金	10,978	2,992
その他の金融負債	124	1,136
従業員給付	1,100	1,391
引当金	111	111
繰延税金負債	197	198
その他の非流動負債	1,590	1,514
負債合計	44,789	42,722
資本		
親会社の所有者に帰属する持分合計	85,560	87,060
資本金	19,113	19,133
資本剰余金	28,207	28,221
利益剰余金	33,442	36,204
自己株式	△ 1,133	△ 1,119
その他の資本の構成要素	5,930	4,620
非支配持分	117	143
資本合計	85,678	87,204
負債・資本合計	130,467	129,926

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

要約連結純損益及びその他の包括利益計算書

(第93期上半期 2018年4月1日から2018年9月30日まで)
(第94期上半期 2019年4月1日から2019年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	第93期 上半期	第94期 上半期
売上収益	44,335	49,808
売上原価	22,188	23,179
売上総利益	22,146	26,628
その他の収益・費用		
販売費及び一般管理費	13,579	13,892
研究開発費	5,226	6,281
その他の収益	337	197
その他の費用	195	20
営業利益	3,482	6,632
金融収益	365	274
金融費用	168	534
税引前四半期利益	3,678	6,371
法人所得税費用	537	1,688
四半期利益 (△は損失)	3,141	4,682
純損益に振り替えられることのない項目	253	33
純損益に振り替えられる可能性のある項目	985	△ 1,344
その他の包括利益合計	1,238	△ 1,310
四半期包括利益 (△は損失)	4,380	3,372

四半期利益の帰属		
親会社の所有者	3,125	4,656
非支配持分	16	26
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	4,364	3,345
非支配持分	16	26
1株当たり四半期利益(△は損失) (親会社の所有者に帰属)		
基本的1株当たり四半期利益 (円)	22.75	33.89
希薄化後1株当たり四半期利益 (円)	22.74	33.88

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

要約連結キャッシュ・フロー計算書

(第93期上半期 2018年4月1日から2018年9月30日まで)
(第94期上半期 2019年4月1日から2019年9月30日まで)

(単位：百万円)

科目	第93期 上半期	第94期 上半期
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	8,095	8,691
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 535	△ 1,132
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	108	△ 5,675
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	462	△ 834
V 現金及び現金同等物の増減額	8,131	1,047
VI 現金及び現金同等物の期首残高	35,452	45,097
VII 現金及び現金同等物の期末残高	43,584	46,145

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

■サンディエゴR&Dセンター開設

5Gシステムをはじめとする米国モバイル関連のお客様の開発サポートをより充実させるため、2019年9月に米国・カリフォルニア州サンディエゴにR&Dセンターを開設しました。同R&Dセンターには、日本、インド及びフィリピンからもコアエンジニアを派遣し、お客様の要望に柔軟に対応できる開発サポートを提供します。モバイル技術の先端分野で、主要なお客様との協力関係を強化してまいります。



2020年3月期第2四半期
決算説明会で説明

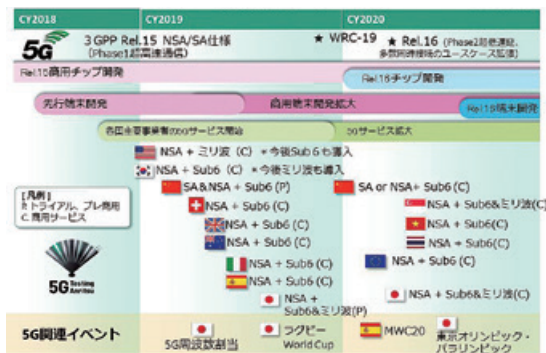
■業界初 5Gミリ波のRFコンFORMANCE試験でGCF認証を取得

米国、韓国に続き、欧州（スイス、英国、イタリア、スペイン）、オーストラリアなど、世界各国で5Gサービスが始まっています。日本でもワールドカップラグビーでプレサービスが行われました。中国においては、5Gの営業ライセンスが国内の通信事業者4社に発行されるなど、2020年サービス開始に向けた取組みが本格化しています。

5G端末の商用化では、GCF（Global Certification Forum）が認証したテストシステムで3GPP規格への適合性を証明する必要があります。アンリツは、この分野においても先進的な取組みを進めており、New Radio RFコンFORMANCEテストシステムME7873NRが、GCFから業界で初となる5G NRのミリ波RFコンFORMANCE試験の認証を取得しました。ME7873NRは、GCFにおいて5G NRのRF/RRMテストプラットフォームTP250として登録されており、Sub-

6GHzのRFコンFORMANCE試験で、業界初のGCF認証を取得

して以来認証の数を増やし、GCFによる5G端末の認証に貢献しています。更に、技術的難易度が高い5G NRミリ波NSAにおいても、RFコンFORMANCE試験でGCF認証を取得しました。これらの取組みにより、端末ベンダは、ミリ波の5G端末についてもRFコンFORMANCE試験開始が可能となりました。



5Gサービスのロードマップ



業界初のGCF認証を取得した
規格適合試験システム

■5G端末用測定器MT8000AがQualcomm 5Gモデムの動作検証に貢献

ラジオ コミュニケーション テストステーション MT8000Aが、Qualcomm TechnologiesのSnapdragon X55 5G モデムRFシステムの開発検証用測定器として採用され、Dynamic Spectrum Sharing (以下、DSS) をはじめとしたX55の主要機能の動作検証に貢献しました。DSSは、1つの無線周波数帯域のリソースをLTEと5Gに柔軟に配分するための技術です。この機能により、LTE端末ユーザの快適な通信を確保しつつ、同一周波数帯域で5G端末ユーザに高速な5Gサービスを提供することが可能となります。また、オペレータは、LTEで現在使用している帯域に5Gサービスを迅速に展開できます。

アンリツは今後も積極的に開発を進め、Qualcomm Technologiesと共に最先端の通信技術実現に貢献してまいります。



Qualcomm Technologiesで
採用されたMT8000A



大勢のお客様が詰めかけたアンリツインフィビスブース

■医薬品の品質保証ビジネス拡大に向けて

PQA事業を担う子会社アンリツインフィビス(株)は、食品分野に続く新たな事業領域として、医薬品の品質保証ビジネスに注力しています。その新製品として、「医薬品用金属検出機」を開発し、医薬品・化粧品・洗剤の専門技術展では日本最大規模である「第21回インターフェックスジャパン」でお披露目しました。錠剤やカプセルに特化したアルゴリズムにより、鉄やステンレス、アルミなどの金属異物を高感度に検出できることから、大きな関心を集めました。また、カートンへのバーコード印字と印字検査、商品の質量検査の良否判定が同時にできる「GS1捺印・検査機能付オートチェッカ」やロボットアームが商品を掴み損ねて箱に入れられなかった場合でも、オートチェッカが質量を個数に換算して欠品アラームを出す「平行リンクロボット搭載型オートチェッカ」、医薬品のかみこみ/欠品検査に特化したX線検査機、総合品質管理・制御システム「QUICCA Pharma」も展示し、医薬品の品質保証を支えるトータルソリューションをアピールしました。



錠剤・カプセル用金属検出機

会社の概要 (2019年9月30日現在)

商号 アンリツ株式会社
ANRITSU CORPORATION
本社 神奈川県厚木市恩名五丁目1番1号
(〒243-8555)
創立 1931年3月17日
資本金 191億円
従業員数 3,853名(連結) 859名(単独)

役員 (2019年9月30日現在)

代表取締役	濱田宏一
取締役	窪田顕文
取締役	新美眞澄
取締役	島岳史
取締役(社外取締役)	関孝哉
取締役(社外取締役)	青木和義
取締役(監査等委員)(社外取締役)	五十嵐則夫
取締役(監査等委員)(社外取締役)	清水恵子
取締役(常勤監査等委員)	谷合俊澄

執行役員・理事 (2019年9月30日現在)

社長(グループCEO)	※濱田宏一
専務執行役員	※窪田顕文
常務執行役員	※新美眞澄
執行役員	※島岳史
執行役員	橋本康伸
執行役員	武内博幸
執行役員	藤掛博昇
執行役員	内田野嘉之
執行役員	天野正彦
執行役員	門脇正彦
執行役員	徳家努
常務理事	川辺哲雄
常務理事	高橋幸宏
常務理事	高木章雄
常務理事	脇永徹
常務理事	オラフ・ジーラー
常務理事	野田華子
常務理事	播本彰大

(注) ※印を付した執行役員・理事は、取締役を兼務しております。

株式の状況 (2019年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 / 400,000,000株
- 発行済株式総数 / 138,234,294株
- 株主数 / 54,788名
- 株式の所有者別状況

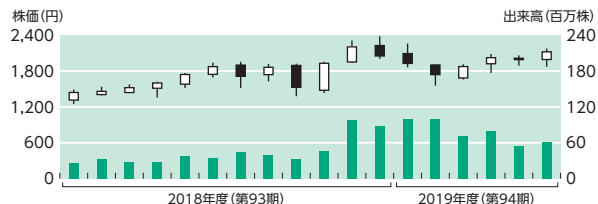
証券会社(37名) 2,279千株(1.65%)	その他の法人(406名) 2,848千株(2.06%)	金融機関(68名) 56,898千株(41.16%)	外国法人等(372名) 39,243千株(28.39%)	個人その他(53,905名) 36,963千株(26.74%)
-----------------------------	--------------------------------	-------------------------------	---------------------------------	------------------------------------

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	22,161	16.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	12,795	9.30
BBH FOR MATTHEWS ASIA DIVIDEND FUND	8,730	6.35
M S I P C L I E N T S E C U R I T I E S	3,291	2.39
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	2,683	1.95
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	2,579	1.87
住友生命保険相互会社	2,314	1.68
BNYM SA/NV FOR BNYM FOR BNYM GCM CLIENT ACCTS M ILM FE	2,136	1.55
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社・三井住友信託退給口	2,000	1.45
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	1,717	1.25

(注) 持株比率は自己株式(646,518株)を控除して計算しております。

株価・出来高の推移



株主メモ

- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日
- 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社
- 株主名簿管理人事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 東京都杉並区和泉二丁目8番4号(〒168-0063)
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先) ☎ 0120-782-031
(インターネットホームページURL) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>
- 公告の方法 当社ホームページに掲載します。
(URL) <https://www.anritsu.com/koukoku>